

AV情報スクランブル

Audio Visual Information

2月 Scramble

主要記事

平成13年度視聴覚教育メディア関係予算案について
NECC2001日本代表プレゼンターに2名が決定
2001年ICEM会員募集
学習情報政策課の異動

文部科学省情報

平成一三年度視聴覚教育メディア関係予算案について

平成一三年度予算編成に当たっては、厳しい財政状況の下、基礎・基本の確実な習得や「生きる力」を育むことを目指した教育改革の推進、二一世紀の我が国を担う人材の育成、科学技術創造立国の実現を目指した科学技術・学術の振興、ゆとりある文化・スポーツの振興など、大きな時代の変化に柔軟かつ的確に対応する施策を積極的に推進することができ、算の確保に努めるとともに、省庁

統合を踏まえた融合・連携施策の展開を図り、文部科学省所管の一般会計予算額は六兆五七八三億九四〇〇万円となっている。

平成一三年一月六日の省庁再編により文部省生涯学習局学習情報課は、文部科学省生涯学習政策局学習情報政策課となり、「教育、スポーツ及び文化に係る情報通信の技術の活用に関する企画立案等」を担当することとなった。また、従来所管していた図書館行政分野を社会教育課が所管することになった。

平成一三年度予算編成においては、平成一二年一月二八日の生

平成13年度予算 視聴覚教育メディア（学習情報政策課）関係予算案

事 項	平成12年度		比較増減 △減額
	千円	千円	
衛星通信を活用して大学の公開講座を広く全国に提供するための総合的システムを構築するための調査研究（新規）	13,304	0	13,304
マルチメディア時代に向けた情報教育の在り方に関する調査研究費	6,447	8,932	△2,485
学習資源デジタル化・ネットワーク化推進事業	323,739	323,000	△739
エル・ネット活用推進事業（衛星通信利用による「子ども放送局」推進事業の名称変更）	905,478	930,821	△25,343
まなびのネットシステム推進事業	72,253	60,650	△11,603
情報リテラシー育成研究指導	11,237	17,454	△6,217
衛星テレビ放送事業	311,464	311,480	△16
視聴覚教材等の充実	167,274	152,330	△14,944
民間社会教育施設等運営補助金（視聴覚教育関係）	24,913	22,437	△2,476

「才能を拓く」その考え方 見つけ方 伸ばし方」E・ポール・トランズノドロシー・A・シスク共著、野津良夫訳、文芸社、二〇〇〇年一〇月刊、B六判、二九二頁、一六〇〇円（税別）

本書は、一九六〇年代から創造性教育の研究者として著名なトランズ博士がシスク教授と協力して、才能ある子どもたちの教育について、才能のとらえ方、教育の目標、才能ある子どもの見つけ方、動機づけの方法、カリキュラムや具体的な指導法などにわたって多面的・総合的に要諦を無駄なく論じた書である。

著者たちは、まず、唯一の尺度で才能を定義するごぼれるものが多いことを指摘して、「伝統的な一次的、固定的知能観・才能観を排し、戦後提出されたさまざまな知能観を検討して、才能は多種類あつて複雑なものだ」という広い才能観に立脚する。そして、教育の目標を客観的に考察し、子どもたちの潜在的な才能の見つけ方、動機づけの乏しい場合の考えられる理由とその解決法について提言している。



次に、才能児のためのカリキュラムなどに続いて、ロールプレイング、協同学習、教授のインキュベーションモデル、創造的読書リサーチ、メンター制等のさまざまな実践的な指導法が、多年の研究を背景に豊富に例示されている。

少子高齢化社会を迎え、環境問題など未曾有の課題を抱えて二一世紀は幕を開けた。明るい新世紀を切り拓いていくには、各人が自己の才能に誇りと自信をもち、多様な知恵と力を結集していく必要がある。日米の社会・文化的相違はあるものの、本書は日本でも子どもの多彩な潜在的才能を積極的に見出し、伸ばしていくための新鮮なヒントに満ちている。

著者・訳者共にこの高年齢であるが、若い世代に対する衰えぬ情熱と愛情も範としたい。（田中 みどり）

涯学習審議会答申で指摘されている「衛星通信を活用して大学の公開講座を全国に提供する総合的なシステムを構築するための調査研究」を実施するための予算を新たに確保した。

以下、平成一三年度予算案において学習情報政策課が実施する各事業を紹介する。

「衛星通信を活用して大学の公開講座を広く全国的に提供する総合的なシステムを構築するための調査研究」

多くの大学の公開講座を衛星通信の活用によって全国の公民館等に配信する総合的なシステムの在り方（組織、財政、管理、運営等）に関する調査研究を行う。

「マルチメディア時代に向けた情報発信の在り方に関する調査研究開発」

マルチメディアを活用した文教関係情報化推進事例等の調査研究を引き続き行う。

「学習資源デジタル化・ネットワーク化推進事業」

学校教育用コンテンツの開発のため、教員のニーズに対応した学習資源のデジタル・アーカイブ化

と活用の促進について、全国に普及すべき手法の研究開発を行う。

「エル・ネット高度化推進事業」（名称変更）

エル・ネット（教育情報衛星通信ネットワーク）の高度化を推進するための実証的な調査研究（オープンカレッジ等）を実施する。

「まなびねっとシステム整備事業」

利用者の多様なニーズに対応するため、より広い範囲から情報収集し提供するための検索システムなどポータルサイトとしてのまなびねっとの調査研究を引き続き行う。

「情報リテラシー育成研究指導」

人々の情報リテラシーの育成やマルチメディアの教育利用のための指導資料の作成等を引き続き行う。

「教育テレビ放送事業」

民間放送局の教育番組の充実向上と放送を通じた家庭教育の充実、青少年の健全育成を図るため、教育テレビ放送番組の企画、制作、放送及び調査研究を行う。

「視聴覚教材等の充実」

教育上価値が高く、学校教育又

ブックレビュー

「映画少年・淀川長治」 荒井魏著
 岩波書店ジュニア新書、二〇〇〇年八月刊、新書判、一九四頁、七〇〇円（税別）

一九〇九年に生まれ、一九九八年秋に亡くなられた淀川長治さんは、幼少の頃から映画館に足を運び、亡くなる数日前まで映画解説の仕事をした。

「映像の世紀」と言われる二〇世紀を映画と共に過ごした人生であった。

淀川さんは、歌舞伎や文楽、バレエ等の芸術にも造詣が深く、その深い教養と豊かな感性で世界の映画人から一目も二目も置かれる国際人であった。

岩波ジュニア新書に納められた本書では、その生い立ちから映画と共に歩んだ人生を追いながら、淀川さんが映画から学んだこと、「映画の伝道師」として特に若い世代に伝えたかったことが分かりやすく語られている。

淀川さんは、「学校の勉強であれ、映画であれ、人から無理強いされるよりも、楽しんで学ぶことを心がける」という考え方で終生過ごした。



た。

学校の勉強は、あまり得意ではなかった淀川少年が、好きだった映画からいかに多くの事を学んだかが、多くのエピソードと共に描かれている。

また第三章に書かれた人生の三つの信条

「苦勞よ来い」

「他人歓迎」

「私はかつて嫌いな人に会ったことがない」

や、映画も人生もその根本に「愛」が無ければならない、といった信念は若い人たちにこそ訴えたかった事に違いない。

本書は人生の達人の域に達した淀川さんの人生をいきいきと描き、若い世代にとっての教養書として大変優れた著作である。

（本田 哲朗）

は社会教育に広く利用されること
 が適当なものを選定するとともに、
 特に優れた作品を買い上げて各都
 道府県・指定都市教育委員会に配
 布する。

「民間社会教育活動振興費補助
 金（視聴覚教育関係）」

全国的規模の社会教育団体が行
 う社会公共的意義のある事業に対
 して、当該事業に要する経費の一
 部を補助する。

AV情報

NECC2001日本代表プレ
 ゼンターに二名が決定

「新しいテクノロジーを利用し
 た教育」をテーマとする全米最大
 規模の情報教育会議NECC
 (National Educational Computing
 Conference)の日本の窓口である
 任意団体NECA (Nippon
 Educational Computing Association
<http://www.neca.gr.jp/home.html>)は、今年シカゴにおいて六月二五、二七日に開催されるNECCの会議で、日本の実践発表を行う日本代表プレゼンターの最終選考会を一月三日、東京・新宿区アップルコンピュータ(株)の

セミナールームにおいて開催した。

小・中・高校の教師を対象に、
 発表学習部門（課題・グループ学
 習の授業実践）と、交流学習部門
 （学校間・国際交流の実践など）の
 二部門で実践報告を募集し、全国
 から五四件の申し込みがあり、以
 下の二件の実践報告が選ばれた。
 明崎潤子氏（兵庫県立阪神養護学
 校）「障害児と健常児の仮想空間を
 利用した実践交流」/山本直樹氏
 （京都市立桂坂小学校）「メディア
 の特性をいかした遠隔地交流学習」

海外情報

二〇〇一年ICEEM会員募集

ICEEMとはInternational
 Council for Educational Media (国
 際教育メディア協議会)のことで、
 視聴覚教材の製作、配給、情報提
 供に関する加盟各国の協力を奨励
 するために作られた協議会で、次
 代のメディアに関心の深い世界の
 めばしい約三〇か国が協力しあっ
 ている組織である。

ICEEMでは、加盟国それぞれ
 に代表会員を設ける制度がある
 （日本は日本視聴覚教育協会）。ま
 た、希望すれば会員になれる

各番組は、エル・ネットを利用し、全国一五〇〇か所の受信施設（公民館・図書館・学校・生涯学習センターなど）に放送されています。子ども放送局 第二・四土曜日

- 一〇日「宇宙」
- 一三：三〇～一五：三〇
- 一三：三〇～一五：三〇
- チャレンジ教室「Jリーガーのサッカー教室」（生中継）
- 生中継の番組では、質問・意見をファックス、電子メールで募集中！
- FAX 〇三 五七九〇 八一五四
- http://www.kodomo.nyc.go.jp
- 問い合わせ
- 国立オリンピック記念青少年総合センター 子ども放送局係
- 電話 三 三四六七 一六
- 家庭教育セミナー
- 一日（金）・一六日（金）シリーズ
- 第三弾「明日の親のためのシリーズ」
- 一九：〇〇～二〇：〇〇
- 第三回「いろいろな子育て・外国の子育て事情」講師：ミュリエル・ジョリヴェ、ベマ・ギャルボ
- 第四回「みんなで支える子育て」講師：河野真理子・上出弘之
- 問い合わせ先
- 国立女性教育会館事業課
- 電話 〇四九三 六一 六七一一
- FAX 〇四九三 六一 六七二〇
- E-mail progdiv@nwc.go.jp

短 信

二二八六

学習情報政策課の異動

学習情報課長岡本薫氏↓文化庁長官官房著作権課長（後任・学術国際局学術情報課長尾 春樹氏）/庶務係長妹尾剛氏↓生涯学習推進課庶務係長（後任・生涯学習振興課専門職員米本善則氏）/図書館振興係長大内あづさ氏↓国立科学博物館総務部総務課研究協力室長（今回の省庁再編に伴い図書館振興係は社会教育課）/メディア係長坂下裕一氏↓初等中等教育局教育課程課教育課程第二係長（後任・同課学習情報係長中村司氏）/企画調査係長玉井英司氏↓学習情報係長（後任（主任）・大臣官房調査統計企画課企画係主任長谷川聖氏）/学習情報係長中村司氏↓メディア係長（後任・同課企画調査係長玉井英司氏）

訃 報

元文部省社会教育局主任社会教育官・国立室戸少年自然の家所長齋藤伊都夫氏は平成二二年一月二二日、逝去された。享年八四歳

個人会員、小・中・高等学校会員、公益法人・大学・専門学校会員、企業会員の四種類の会員制度がある。会費はそれぞれ一〇〇・一五〇・二五〇・三〇〇スイスフランとなっている。現在、日本からは個人会員が一二名、公益法人会員一団体、企業会員一社が登録されている。これだけのまとまりになれば、単独で活動することも、相互交流も自由であり、一層の発展が期待される。類似の組織は見当たらないので、関心のある方はICEMへぜひ加入していただきたい。

二〇〇一年の会費は、個人会員で一〇〇スイスフラン（一〇〇スイスフランは年四回の機関誌代と資料等の郵送料を含むと日本円で九〇〇円）。会員になれば、ICEM主催の「メディアアデイズ」（世界の教材見本市）や、「国際研究集会・年次総会」（今年は一〇月に台湾の台北）に参加でき、ICEMや協会からの情報や資料が送られる。なお、ICEMに関するお問い合わせや、入会希望の方は、日本視聴覚教育協会・編集部 佐藤まで。電話〇三 三五九一